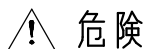


このたびは、弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
ご使用前に必ずこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。  
(この説明書は、必ず保管しておいてください。)

## 安全上のご注意

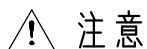
施工、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの取扱い説明書とその他の注意書きをすべて熟読し、正しくご使用ください。機器の知識、安全の情報として注意事項のすべてについて習熟してからご使用ください。

この取扱い説明書では、安全注意事項のランクを「危険」「注意」として区分してあります。



**危険**

：取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡又は重傷を受ける可能性が想定される場合。



**注意**

：取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の障害や軽傷を受ける可能性が想定される場合、及び物的損害だけの発生が想定される場合。



**注意**

なお、記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

## ■使用上の注意



**危険**

- 端子部に触れないでください。感電のおそれがあります。



**注意**

- 遮断器が動作した場合は、原因を取り除いてからハンドルを「ON」にしてください。火災のおそれがあります。
- 保守・点検は、専門知識を有する人が上位遮断器を「OFF」し、電気がきていないことを確認して行ってください。感電のおそれがあります。
- 月に1回程度ブレーカのテストボタンを押して動作確認を行ってください。遮断器が「OFF」にならない場合は故障です。電気工事店へ連絡してください。
- 端子台付属のテストボタンによって漏電警報の動作確認が行えます。警報を解除する時は、リセットボタンを押してください。
- 漏電警報が動作した時は、機器や電路の絶縁を確認してください。
- 絶縁測定は、充電部と大地間の測定はできますが、極間の測定はできません。負荷側の電線を外して測定してください。

## ■施工上の注意



**注意**

- 電気工事は、有資格者（電気工事士）が行ってください。
- 配線作業は、上位遮断器を「OFF」し、電気がきていないことを確認して行ってください。感電のおそれがあります。
- 中性線を必ず中性相に接続してください。又、中性線欠相検出用リード線は負荷側の中性相に確実に締め付けてください。中性線欠相で動作せずに火災の原因となります。
- このブレーカは漏電ブレーカではありません。漏電ブレーカの設置義務を配慮の上、ご使用してください。
- 高温、多湿、じんあい、腐食性ガス、振動、衝撃などの異常環境に設置しないでください。火災や動作しないおそれがあります。
- ごみ、コンクリート粉、鉄粉、虫などの異物及び雨水等が遮断器内部に入らないように施工してください。動作しないおそれがあります。
- 電線接続の際、端子ねじを確実に締め付けてください。火災の原因になります。標準締め付けトルク一覧表

ねじ径	M3.5	M5	M6	M8	M8 (六角穴付)	M12
締め付けトルク N・m (kgf・cm)	0.8~1.2 (8~12)	2.5~3.5 (25~35)	4~5 (40~50)	5.5~7.5 (55~75)	8~13 (80~130)	40~50 (400~500)

- 電線は電源側・負荷側の指示通りに接続してください。

## ■動作

- 過電流や短絡事故が発生した場合、自動的にトリップし電路を遮断します。電路の中性線の欠相により過電圧（135V以上）が発生した場合、0.5秒以内に電路を遮断します。過電圧で動作の場合のみ白ボタンが突出します。
- トリップした場合、一度「OFF」側に戻してから再投入してください。
- 漏電又は地絡事故が発生した場合は、内蔵リレーの接点が閉じ漏電が警報されると共に漏電表示ランプが点灯します。しかしブレーカはトリップしません。

施工業者名

TEL

施工年月日

年 月 日

仕様等、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。  
また、ご不明な点がありましたら弊社お客様相談室にお問い合わせください。  
この取扱説明書の内容は2009年5月現在のものです。